

# せいしょ ぼうけん ものがたり 聖書の冒険物語

だいごう  
第1号

ねんがつにち  
2021年5月28日

## わたし つく くだ 私のためにパンを作ってください

れつおう きじょうだい しょう さいわ  
列王紀上第17章の再話

きげんぜん ねん  
紀元前850年ごろのイスラエルでは、  
しじょうさいあく おう どうちか  
史上最悪の王アハブの統治下で、  
ひとびと ふかかな くなん あじ  
人々が深い悲しみと苦難を味わっていた。  
じゃあく つま ただい えいきょう  
邪悪な妻イゼベルの多大なる影響で、  
アハブはイゼベルのバアル信仰を取り  
入れた。バアル信仰は異教の悪魔崇拝で、  
ひとびと いけにえ おう  
人々を生贄にしていた。アハブ王と  
イゼベルの統治下で、真の神の預言者達も  
つぎつぎ ころ こくきょう  
次々と殺され、バアル信仰が国教と  
なった。

かみ たい いか あらわ  
神はそれに対する怒りを表すために、  
ごじしん よげんしゃ おう もと  
御自身の預言者エリヤをアハブ王の元へ  
つか つか つか  
遣わし、このような不吉な知らせを  
つた わたし つか  
伝えさせた。「私の仕えているイスラ  
エル神、主は生きておられます。私の  
ことば いうち いうち いうち  
言葉のないうちは、数年雨も露もないで  
しょう。」

きょうれつ けいこく つた あと  
この強烈な警告を伝えた後、  
かみ ひがし  
神はエリヤに、ヨルダンの東にある  
ケリテ川のほとりに身を隠すように  
と言われた。水はその川から飲める。  
い みず かわ の  
神はまた、カラスに命じて、毎日  
エリヤにパンと肉も運ばせられた。

よげん とおり あめ  
エリヤが預言した通り、雨は  
いってき ふ くじゅう かん  
1滴も降らなくなり、国中に干ばつが  
ひろがった。うだるような暑さが  
なん げつ つつ しゃくねつ たいよう  
何か月も続き、灼熱の太陽がイスラ  
エル神の干上がった地を容赦なく照り  
つけた。作物は枯れ、水源も干上がり、  
くに ききん おそ  
国は飢饉に襲われた。しばらくすると、  
エリヤが水をくんでいたケリテ川も  
か かわ  
枯れてしまった。神は忠実な方で、  
ケリテ川の水が枯れたちょうどその日、  
エリヤに、ザレパテへ行って、そこに

す  
住むようにと言われた。

「さあ。わたしはザレパテの  
やもめに命じて、あなたを養わせる  
から。」と、主は言われた。

ザレパテは、ケリテ川から  
160km以上北にある。エリヤは、  
この危険な旅を徒歩でしなければ  
ならなかった。砂漠化した荒地や  
岩だらけの丘や山道を何日も歩いた後、  
エリヤは遂にザレパテに着いた。  
現在のレバノンに当たる、海岸沿いの  
町だ。汗だくでほこりまみれの疲れ

き  
切ったエリヤが町の門に近づくと、  
ひとり じょせい ひろ あつ  
1人の女性がたきぎを拾い集めていた。

エリヤは大声で言った。「水を  
ください！ 器に水を少し持ってきて、  
わたし の くだ  
私に飲ませて下さい！」

つか は ようす たびびと  
疲れ果てた様子の旅人をあわれに  
おもった じょせい は みず も こ  
思った女性は、水を持って来ようと  
して立ち上がった。

すると、エリヤはまた女性を  
よ い ひと ち  
呼んで言った。「どうか、一口の  
パンも持って来て下さい。」

よげんしゃ じんせい お ひと まんでん ものがたり  
預言者エリヤの人生に起こった、もう1つのスリル満点の物語  
てん ひ くだ み のが  
「天から火が下る」も、お見逃しなく！



女性は言った。「主は生きておられます。私にはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今私はたきぎ

2、3本を拾い、うちへ帰って、私と子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。」

この女性こそ、神が自分を養ってくれると約束されていたやもめなのだ。気付いたエリヤは、女性にこう言った。「心配するにはおよびません。行って、あなたが言った通りにして下さい。しかしまず、それで私のためにパンを

1つ作って、持って来て下さい。その後、あなたと、あなたの子供のために作って下さい。

主が雨を地の表に降らす日まで、あなたのかめの粉は尽きず、びんの油は絶えないと、イスラエルの神、主が言われるからです。」

このような突拍子もない言葉に女性は驚いたが、エリヤが主の御名で權威を持って語ったので、彼が神の預言者であると分かり、彼を信じた。彼女は神に信頼しようと決め、

エリヤの言ったようにした。それで家へ急ぎ帰り、かめの底に残っていた一握りの粉をかき集め、びんに残っていた最後の数滴の油を注ぎ出した。

粉と油を混ぜ合わせてパン種をこね、かまどに入れてエリヤのためのパンを焼いている間、彼女はキッチンを片付け始めた。空の油のびんを片付けようとして、彼女はハッと驚いた。

「どうしてさっきよりも重いのかしら？」ほんの少し傾けてみると、油がキッチンの床にしたり落ちた。大急ぎで粉のかめも見ると、

彼女は驚きの叫びを上げた。さっきまで空だったかめには、ふちまで一杯に粉が入っていた。奇跡が起きたのだ！

やもめの心は、このような素晴らしい主の祝福に与ったことで、神への感謝の気持ちであふれた。そして、エリヤが預言したように、飢饉の間中、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかったのだ。

彼女は、自分にありったけのものを与えたが、神は、彼女が想像もできないような形で報いて下さったのだった。

このすごい聖書の登場人物について、もっと読んでみよう。

「聖書の偉人：エリヤ」を見てね。